

2026年度 入学試験問題 B 日程・午後

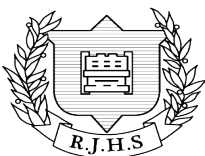
国語

2026年1月18日（日）実施

【注意事項】

1. 解答は必ず解答用紙の指定された枠内に楷書で、濃く、はっきり記入すること。
2. 問題は1ページから14ページまでです。解答用紙は表と裏の両面あります。
3. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないこと。合図があったら、必ず問題用紙と解答用紙に受験番号と名前を忘れないに記入すること。
4. 問題用紙を破ったり切り取ったりしないこと。
5. 解答を書き直す場合は、前のものをしっかり消すこと。
6. とくに指示がない場合、句読点、記号などはすべて一字と数えます。
7. 問題作成上、文章の表現をかえたり、省略したりしているところがあります。

受 験 番 号	名 前



履正社中学校

一 次の文章を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

その昔、①コシヨウは金と同じ価値を持っていたと言われている。

教科書でそんな話を習ったとき、こんなものに、そんなに価値があるのかと思った覚えのある人も多いだろう。コシヨウは、今なら数百円で売っている手軽な調味料だ。

古来、ヨーロッパでは家畜かちくの肉が貴重な食料であった。冷涼れいりょうで乾燥かんそうした気候では、イネ科の草原が広がる。しかし、イネ科植物の茎くきや葉は人間の食糧しょくりょうとはならない。そこで、イネ科の植物を牧草として草食動物に食べさせて、動物の肉を食料とするのである。家畜は英語で「リブストック」という。これは「生きた在庫」という意味である。しかし、冬になると家畜に食べさせる餌えさがなくなってしまう。今では草を乳酸発酵はっこうさせたサイレージや保存の利きく穀物が餌として用いられるが、草を刈かって保存しておくことしかできない当時は、十分な餌を確保することができなかったのである。A、冬になる前に家畜を殺して肉にした。しかし、肉は腐くさりやすいので保存しておくことができない。それでも、冬の間は、その肉で食いつなぐしかなかった。そこで、乾燥させたり、塩漬しおづけにしたりする他なかったのである。

ところが、香辛料こうしんりょうがあれば肉を良質な状態でおいしく保存することができる。香辛料は、「いつでも美味おいしい肉を食べる」という贅ぜいたく沢な食生活を実現してくれる魔法まほうの薬だったのである。

ところが、ヨーロッパの人々にとってコシヨウは、手に入りにくい高級品であった。コシヨウは南インド原産の熱帯植物なので、中東のアラブ地域やヨーロッパでは栽培さいばいすることができない。そのため、インドから陸路はるばる運ぶしか手に入れる方法はなかったのである。そのため、多額の輸送費が掛かかるし、無事に運べるとは限

らないから、どうしても高価になる。しかも、コシヨウがインドからヨーロッパに来るまでには、アラブ商人やベネチア商人を経由しなければならなかったし、通行税も課せられたから、価格は跳ねあがった。そのため、コシヨウは驚くほど高価だったのである。

※ 十字軍が遠征すると、騎士たちはイスラム圏の食べ物を味わった。そこでは、コシヨウなどの香辛料が使われ

ていたのである。そして、十字軍がコシヨウなどの香辛料を母国に伝えると、中世のヨーロッパの人々は羨望するようになるのである。コシヨウなどの香辛料を、陸路を通ることなく、インドから海路で直接、ヨーロッパに持ち込むことができれば、莫大な利益が得られる。コシヨウが欲しいヨーロッパの人々は、誰しもそう考えたはずである。

B

、それはとても不可能な夢であった。

② 中世のヨーロッパの船乗りたちにとって、海とは主に

地中海のことであった。しかし、地中海の外側にあるポルトガルやスペインにとっては、地中海での貿易は難しい。そのため、地中海の外側に船を繰り出していった。それでも、アフリカ大陸の沿岸を航行するのが精いっぱいであつたという。アフリカの北西部にボジヤドル岬という小さな岬がある。船乗りたちは、この小さな岬を越えることさえできなかつたという。ヨーロッパの人々にとって、海の向こうの世界とは、一度越えれば生きては帰れない恐ろしい世界だったのである。しかし、勇猛果敢なエンリケ航海王子と呼ばれる男が、その岬を進むと、そこには象牙や砂金など価値ある交易品があつた。そして、アフリカにはコシヨウに似た味のするマラゲッタペッパー（ギニアシヨウガ＝*Aframomum melegueta*）と呼ばれる植物もあつたのである。マラゲッタペッパーはシヨウガ科の植物で、コシヨウ科のコシヨウとは別物であるが、香辛料としては十分に使えるものだったのである。後に、このマラゲッタペッパーの取引が行われた場所は「胡椒海岸」と呼ばれている。

そして、エンリケ航海王子は、強靱な肉体を持つ黒人も奴隷として連れ帰った。これが「大航海時代」の始まりであり、暗黒の歴史である奴隷貿易の始まりである。やがてポルトガル国王の命を受けたバルトロメウ・ディアスの船団は、ついにアフリカ南端の喜望峰に達し、大西洋からインド洋への航路の可能性を発見する。ところが、その頃、ポルトガルにとってショッキングなニュースが飛び込んできた。それが、一四九二年にコロンブスがインドに到達したというニュースだったのである。ポルトガルに大航海時代の先を越されていたライバル国のスペインは、ポルトガルの東回り航路に対抗して、西回り航路を目指すコロンブスを援助したのである。

現在の私たちは、コロンブスが到着したのはインドではなく、アメリカの西インド諸島であったことを知っている。しかし当時は、コロンブスはインドに到着したと信じられていたのである。

コロンブスが到達したのはインドではなかったが、そこは豊富な資源がある場所であった。そのため、ポルトガルやスペインは競って新大陸を探検し、次々に植民地化を進めていく。コロンブスが新大陸を発見する以前か

ら、③ポルトガルとスペインは覇権を争い、船の到達先で紛争を繰り返していた。この度重なる紛争を解決する

ために、一四九四年にカトリック教皇によってスペインとポルトガルの間で交わされたのが、④トルデシーヤス条約である。条約が結ばれたのは、コロンブスが新大陸を発見した二年後のことである。この条約で大西洋に境界線が引かれ、西経46度37分の境界線より東側で発見された土地はすべてポルトガルが領有し、境界線の西側で発見された土地はすべてスペインが領有することになった。こうして、ポルトガルは支配を強めていたアフリカを手に入れ、スペインは発見されたばかりで未知の土地であったアメリカ大陸を手に入れることになる。こうして、ポルトガルとスペインは世界を二分して支配するようになったのである。しかし、他のヨーロッパの

国々からすると、これはおもしろくない裁定であった。そのため、**⑤** オランダやイギリスがカトリックから離れてしまうきっかけにもなった事柄である。その後、スペインはアメリカ大陸の植民地化を進めていった。

インカ帝国がスペイン人に征服されたのも、このときである。現在でも中南米の多くの国々はスペイン語を話す。ただし、南米のブラジルだけはポルトガル語である。ポルトガルの探検家が発見したブラジルは、境界線の東側にあった。そのため、ブラジルはポルトガルの植民地となったのである。やがて、アメリカ大陸を制したスペインは、**C** 西回りの航路でアジアへの到達を目指すのである。そして、アメリカ大陸から太平洋を渡ったのがマゼランである。マゼランはポルトガル人であったが、スペイン王の命を受けて太平洋を横断する。残念ながらマゼランは命を落としてしまうが、彼の部下たちは、ついに世界一周を成し遂げるのである。

コロンブスがアメリカに到達した六年後の一四九八年、ヴァスコ・ダ・ガマは、ついに東回り航路でインドに到達する。そして、ポルトガルはコショウを求めて、次々にインドへ向けて船を出すようになるのである。しかし、富を得たポルトガルは次第に没落していく。アフリカとの交易によって黒人奴隷が増えたことによって、ポルトガルの農民たちは次第に労働意欲を失い、生産力は低下していった。そして、富によって政治や貴族社会も腐敗していったのである。

他方、スペインから独立を果たしたオランダは、スペインの支配から逃れるために、財力を必要としていた。また、オランダは新教徒のプロテスタントであり、迫害を受ける恐れもあった。そのため、どうしてもアジアの香辛料が欲しかったのである。

ポルトガルは東回りでアジアへ向かう。スペインは西回りでアジアへ向かう。後れを取ったオランダやイギリスは第三の道を目指した。それが、北から中国へ入る北航路である。しかし、北極圏を通るような北航路は実現

しなかった。D、イギリスは新しい航路を求めて探検を繰り返し、オーストラリアやハワイ諸島を発見する。やがて、オランダは相手国と友好を結びながら、国交を広げていくようになった。これには理由がある。スペインやポルトガルは自国の貿易の独占を守るために、白人はスペイン人とポルトガル人だけで、オランダ人は野蠻であるとアジアの諸国に伝えていた。そのため、悪評を払拭するためにオランダは現地の君主と友好を深めようと努めたのである。

また、乱暴な征服や強引な植民地支配により、スペインやポルトガルといった大国が瞬く間に凋落していくようすを目の当たりにしたオランダやイギリスは、⑥ていねいな植民地支配を心掛けたのである。やがて、イギリスはスペインの無敵艦隊を破り、オランダは東インド諸島でポルトガルを打ち破った。そして、世界の覇権はイギリスとオランダへと移っていったのである。

（稲垣栄洋『世界史を大きく動かした植物』より）

※十字軍……11世紀末から13世紀末にかけて、キリスト教徒がイスラム教徒から聖地エルサレムを奪還するために行った軍事遠征。

※凋落……勢いが衰えて落ちぶれること。

問一 **A** **D** にあてはまる言葉として、もつとも適当なものを次の**A**～**E**の中から選び、それぞれ記号

で答えなさい。ただし、各記号は一度しか使えません。

A さらに **I** そのため **U** また **E** しかし

問二 — 線①「コシヨウは金と同じ価値を持っていた」とありますが、コシヨウが高額になる理由について述

べた次の(1)～(4)について、本文の内容と一致していれば○で、一致していなければ×でそれぞれ答えなさい。

(1) 陸路にくらべて海路での輸送は莫大な費用と時間がかかるから

(2) 輸送途中で、商品が盗まれるなどの様々な損害が出る可能性が高かったから

(3) インドからヨーロッパまで必ず同じ商人のグループが輸送しなければならなかったから

(4) 輸送中の各地で通行税の支払いをする必要があったから

問三 — 線②「中世のヨーロッパの船乗りたち」とありますが、次の(1)～(5)の人物の【行動】と、その【影

響】^{きやう}としてもつとも適当なものを後の語群からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) エンリケ航海王子 (2) バルトロメウ・ディアス (3) コロンブス

(4) ヴァスコ・ダ・ガマ (5) マゼラン

【行動】

- ア 現在の西インド諸島に到着した
- イ アフリカ南端の喜望峰に達した
- ウ 部下たちが世界一周を成功させた
- エ アフリカ北西部を探索した たんさく
- オ 海路でインドに到達した

【影響】

- カ スペインがアメリカ大陸から西回りの航路でアジアに到達した
- キ 奴隷貿易ともいえる大航海時代の始まりにつながった
- ク 大西洋からインド洋への東回り航路の可能性を発見した
- ケ ポルトガルがコシヨウを求めて、次々にインドへ向けて船を出すようになった
- コ ポルトガルやスペインが競って新大陸を探検し、次々に植民地化を進めていった

問四

——線③「ポルトガルとスペインは覇権を争い」とありますが、ポルトガルやスペインの二国がそもそも新航路の開拓に注力せねばならなかった理由を本文中から連続する二文でさがし、その初めと終わりの五字をそれぞれぬき出して答えなさい。

問五

——線④「トルデシーリヤス条約」とありますが、この条約の内容を本文中の言葉を使って具体的に六十五字〜七十五字で答えなさい。

問六

線⑤「オランダやイギリスがカトリックから離れてしまう」とありますが、次の文章の

1

4 にあてはまる言葉を本文中からそれぞれぬき出して答えなさい。

1 が中心となって 2 と 3 だけに利益を与える 4 を結ばせたから。

問七

線⑥「ていねいな植民地支配」とありますが、それは具体的にどのような支配のことですか。本文中

の言葉を使って答えなさい。

二 次の会話文と資料を読んで、後の問いにそれぞれ答えなさい。

【会話文】

Aさん

「皆さん、お疲れ様です。今日は、小学生と中学生合同の百人一首大会について話し合いたいと思います。今回は初めての試みなので、小学生と中学生の対戦形式をどうするか、特に慎重に考えたいです」

Bさん

「中学生は、やっぱり速く取することに慣れている子が多いから、小学生が圧倒されてしまうんじゃないかな。それで参加者が減ってしまうのは避けたいよね」

Cさん

「そうですね。小学生の中には、百首を完璧に覚えていない子もいるので、そこが心配です。札を取るスピードも、中学生とは全然違いますし」

Aさん

「なるほど。そこが①一番の課題だね。何か良い②アイディアはないかな？」

Bさん 「じゃあ、予選と本戦でルールを変えるのはどうかな？例えば、予選は A ルールにする。そうすれば、

小学生でも札を探することができるね」

Cさん 「そのルール、いいですね！それだと、初心者でも安心して参加できますし」

Aさん 「いいね。それに加えて、予選では中学生は『お手つきなし』だけど、^③小学生は『お手つきあり』というルールにするのもいいかもね。そうすることで、小学生が中学生に圧倒されずに札を取ることができるし。じゃあ、本戦はどうする？」

Bさん 「本戦は、普通の競技ふつうかるたと同じルールでいいんじゃないかな。そうすれば、中学生も本気で対戦を楽しめるし、小学生も上のレベルを目指す^④モチベーションになると思う」

Aさん 「賛成！予選で実力差が近い子同士を対戦させて、本戦に進む人数を決める、という形式にしよう」

Cさん 「それはすごく良いです。それぞれが実力に合わせて百人一首大会を楽しむことができますね」

Aさん 「よし、じゃあその方向で準備を進めよう。当日の進行スケジュールも、このルールに合わせて調整が必要だね。一度、小学生向けの百人一首大会の案内を作ってみるよ。また来週、改めて集まって確認しよう」

資料 1

小学生のみなさん

令和△年△月△日
履正社中学校百人一首同好会

第1回 小学生と中学生の百人一首大会のご案内

「百人一首大会によこそ！ 百人一首を知っている人も、よく知らない人も、
みんなで百人一首を楽しみましょう！」

1. いつ、どこでやるの？

令和○年1月11日（日）、午前9時から約2時間、履正社中学校体育館で実施します。

2. 誰が参加できるの？

小学1年生から中学3年生まで。百人一首を知らなくても大丈夫です。初めての人も大歓迎です。

3. ルールを教えてください！

この大会では、みんなが安心して参加できるように、予選と本選でルールを変えます。

・予選（初めの試合）

ルール：読み上げられる歌の「上の句（最初の五・七・五）」が書かれた札を先にとった人が勝ちです。この予選では、小学生はお手つき（違う札をとること）を2回までしても大丈夫です。積極的にチャレンジしてください。

ポイント：百人一首を覚えていなくても楽しめるように考えたルールです。

・本選（次の試合）

ルール：「競技かるた」と同じルール（詳しくは別の資料で説明）で実施します。読み上げられた歌の□B□が書かれた札を取ります。もし、お手つきをしてしまうと□C□。

ポイント：予選を勝ち進んだ人が、この本選に参加できます。中学生と対戦して腕だめししてみましょう！

4. お約束！

- ・試合中は、大きな声を出さず、静かに競技しましょう。
- ・負けてしまっても、怒ったり泣いたりしないで、相手を拍手でたたえましょう。
- ・みんなで仲良く、百人一首を楽しみましょう。

資料 2

【競技かるたのルール】

1. 使用する札

- ・競技には、小倉百人一首の100枚の読み札（「上の句」と絵が書かれている）と、その「下の句（歌の後半の七七）」が書かれた100枚の取り札が使用される。
- ・このうち、実際に試合で使用するのは、読み札50枚と取り札50枚。

2. 試合の準備

- ・試合で使う50枚の取り札は、自分と相手とで25枚ずつに分けて並べる。これが「自分の陣地」と「相手の陣地」になる。

3. 試合の進め方

- ・読み手が読み札を読み始めたら、最初に正しい取り札を取った人がその札をもらえる。
- ・自分の陣地の札を取った時は、そのまま自分のものになる。
- ・相手の陣地の札を取った時は、自分の陣地から1枚札を選んで相手の陣地に加える。これで自分の陣地の札が1枚減ることになる。

4. 「お手つき」と「送り札」

- ・読まれた札と違う札を触ると「お手つき」になる。
- ・「お手つき」をすると、相手から自分の陣地に1枚札を加えられる（「送り札」）。

5. 勝敗の決定

- ・自分の陣地にある25枚の札が、相手よりも先にすべて無くなった方が勝ちとなる。

問一 A にあてはまる適当な言葉を二十字～二十五字で答えなさい。

問二 B にあてはまる適当な言葉を三字で答えなさい。

問三 C にあてはまる適当な言葉を答えなさい。

問四 ——— 線①「一番の課題」とありますが、その具体的内容を【会話文】の言葉を使って「〜こと。」に続く形で二つ答えなさい。

問五 ——— 線②「アイディア」、————— 線④「モチベーション」とありますが、その意味としてもっとも適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

②「アイディア」

ア 物事の真実や本質を見抜く力^ぬ

イ 新しい物事を思いつくこと

ウ ある行動や考えを行うための計画

エ 物事を組み立てて結論を出すこと

④「モチベーション」

ア 目標を達成するために必要なやる気

イ 他人の意見を尊重し、協調性を保つ力

ウ 新しい知識や技術を学ぶための理由

エ 物事を論理的に判断する能力

問六 競技かるたの試合中に自分の陣地の札を一枚取った場合のルールとしてもっとも適当なものを次のア

イの中から選び、記号で答えなさい。

ア 相手の陣地から、不要な札を一枚自分の陣地に移動させる。

イ 自分の陣地から、不要な札を一枚相手に送る。

ウ 自分の陣地の札が一枚減り、そのまま試合を続ける。

エ 自分の陣地と相手の陣地の札を入れ替えることができる。

問七 ——— 線③ 「小学生は『お手つきあり』というルールにするのもいいかもね」とありますが、完成した案内

では、「小学生はお手つきを2回までしても大丈夫です」とルールが変更（へんこう）されました。お手つきの回数を制限しないことで起こる問題点として、適当（さわ）でないものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学生が手あたりしだいに札に触（さわ）ることができる。

イ 小学生が注意深くなり、試合時間が大幅（おおはば）に伸びる。

ウ 小学生が間違えを恐れなくなり、ルールを学ばなくなる。

エ 中学生が正しく札を取ろうとする手を、小学生が邪魔（じゃま）をする。

三 次の問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～⑤の言葉が表す様子を、後の語群の漢字を組み合わせた二字熟語で答えなさい。ただし、各漢字は一度しか使えません。

- ① ぎくしゃく ② ぐちゃぐちゃ ③ ぎゅうぎゅう ④ きつぱり ⑤ どっしり

混 和 安 乱 確 集 定 不 密 明

問二 次の①～⑩の――線のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれなおしなさい。

- ① 体調についてシュジイに相談する。 ② レンソウしたものを絵にする。
③ 都へノボる。 ④ リヨウシンと道徳に照らして判断する。
⑤ タイサをつけて勝利する。 ⑥ 細大もらさず報告する。
⑦ インドに移住する。 ⑧ 音楽の素養がある。
⑨ 後世に伝えたい文化。 ⑩ 将来の夢は船大工だ。

問題は以上で終了です。

国語

2026年度 入学試験 B日程 午後 解答用紙 おもて

履正社中学校

名前

受験番号

※記入しない

—																
問七	問六		問五							問四	問三		問二	問一		
	(3)	(1)									(4)	(1)	(1)	A		
												行動	行動			
														(2)	B	
												影響	影響			
													(5)	(2)	(3)	C
												行動	行動			
															(4)	D
													影響	影響		
	(4)	(2)										(3)				
												行動				
												影響				

うらに続きます

國語

2026年度入試 B日程 午後 解答用紙 うら

[illegible]

三		
問二		問一
⑥	①	①
		②
⑦	②	
		③
⑧	③	④
		⑤
⑨	④	
⑩	⑤	

国語

2026年度 入学試験 B日程 午後 解答用紙 おもて
履正社中学校

名前

受験番号

※
記入しない

一																		
問七	問六		問五							問四	問三		問二	問一				
例 乱暴な征服や、強引ではない植民地支配。	(3)	(1)	た 条 約 。 65	が 領 有 す る	さ れ た 土 地 、 こ と に な っ	が 領 有 し 、 西 側 で 発 見	れ た 土 地 は ポ ル ト ガ ル	界 線 よ り 東 側 で 発 見	西 経 四 六 度 三 七 分 の 境	例 一 四 九 四 年 に 結 ば れ 、	し か し 、 地 、 て い っ た 。	(4) 行動	(1) 行動	(1)	A			
	ポルトガル（スペイン）	カトリック教皇（教皇）										オ	エ			×	イ	
												影響	影響	(2)	B			
														ケ	キ	○	エ	
												(5) 行動	(2) 行動			(3)	C	
												ウ	イ	×	ア			
														影響	影響	(4)	D	
												トルデシーリャス条約（条約）	スペイン（ポルトガル）	カ	ク	○	ウ	
																(3) 行動	ア	
																影響		コ

国語

二								
問七	問六	問五	問四		問三	問二	問一	
イ	ウ	②	・例 札を取るスピードが中学生と小学生とでは全く違う こと。	・例 小学生の中には、百首すべて覚えていない子もいる こと。	例 相手から、自分の陣地に札を一枚送られます 。	下 の 句	「	例 読
		イ					が	み
		④					書	あ
		ア					い	げ
							て	ら
							あ	れ
							る	た
							札	歌
							を	の
							取	「
							る	上
								の
								句
							ルール	

三		
問二		問一
⑥	①	①
さいだい	主治医	不
		和
		②
⑦	②	混
いじゆう	連想	乱
		③
		密
⑧	③	集
そよう	上	④
		明
		確
⑨	④	⑤
こうせい	良心	安
		定
⑩	⑤	
ふなだいく	大差	